

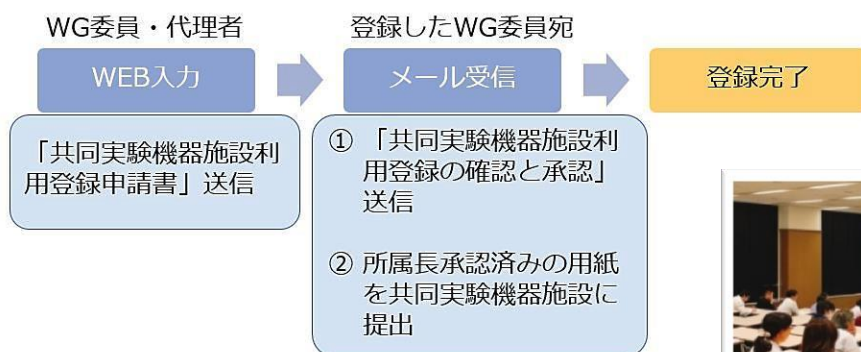
第2号(2019年4月1日発行)
研究支援プラットフォーム

共同実験機器施設だより

H31年度よりBSL2申請と機器施設利用登録はWeb申請に変更です 機器施設Web利用登録の締め切りは4月8日、に迫っています！

今年度より、医学研究科内のBSL2申請と、共同実験機器施設利用登録が共に初回はWeb申請に変更になり、さる3月7日に説明会が開催されました。そろそろ登録を済ませられたことと存じますがいかがでしょうか？ まだ済んでいない所属の担当の方は、できるだけ早くご登録をお願い致します。

《登録の流れ》



説明会・セミナー報告

11月14日：オールインワン蛍光顕微鏡説明会（15階）

初期説明会を同内容で2回開催し、27名の方に参加いただきました。

1月10日：テクニカルセミナー(16階)

メディックス8階会議室においてCRISPR/Cas9ゲノム編集セミナーを開催し、34名の方に参加いただきました。

※当日のアンケート結果を共同実験機器施設HPにて公開中です。

3月7日：登録説明会

バイオセーフティ委員会と機器施設 合同で、登録システムの変更について説明会を開催、62名の方に参加いただきました。

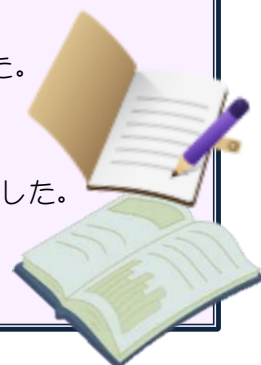
3月11日：蛍光検出器 ACQUITY UPLC 蛍光検出器 説明会(14階)

UPLC制御ソフト説明も含む、新検出器システムの一連の説明会を開催いたしました。8名の方に参加いただきました。

3月19日：蛍光デジタルファイリングシステム DPT4 説明会(13階)

新しく加わった機能等を中心にした操作説明会を開催し、9名の方に参加いただきました。

今後も皆様の研究に役立つような会を開催していきます



納品 修理などのお知らせ

☆ プラットフォーム整備予算により、以下の機器が更新されました

13 階 蛍光・透過光デジタルファイリングシステム (BX53 & DP74 ベース)

14 階 超遠心機 (CP80NX)

15 階 Bio-Plex ワークステーション (Bio-Rad WS)

16 階 イノバシェイカー (1台 Innova 43R)

☆ 全学的環境予算により、以下の機器の購入・更新・修理を行うことが出来ました：()内は申請所属

1階：ウルトラマイクローム修理、13階：クリオスタット CM1950 更新(2 生化・1 解剖・2 解剖)、14階：
蛍光検出器 ACQUITY UPLC 蛍光 (FLR) 検出器(1 解剖・臨床感染)購入、15階：共焦点レーザー顕微
鏡 LSM700 488nm レーザー交換修理、マニピレーター WR-6 更新(麻酔)、16階：濃縮遠心シス
テム サーモ SPD130DLX (薬理)購入。

以上、各申請所属にはお世話になり、ありがとうございました。

※13階クリオスタットの消耗品は各自持ち込みをお願いします。

☆ 機器修理

15階のフローサイトメーター LSR II の本体のボード交換とスポット修理を
3月1日に行いました。不具合は解消され、3月4日より利用再開しております。



☆ 滅菌 いろいろ ☆

機器や無菌状態から取り出し、外気にふれると、その表面の滅菌状態は解除されるので、
アルミホイル等で包んだ上で滅菌し、包みは使用の直前に開けます。

* オートクレーブ滅菌 (加圧高温滅菌)

まずは対象が、高温高圧に耐え、効力を失わない・変性しないものか確認しましょう。

プラ素材は、対応可のものとそうでないものがありますのでカタログなどで確認しましょう。

してはいけないもの例:数%以上に界面活性剤を含む液(突沸の危険)、有機溶媒、血清・抗生剤など熱で
不活化するもの、HEPES を含む溶液、DTT やメルカプトエタノールを含むもの

* 乾熱滅菌

金属・ガラス製の器具滅菌に適しています。

してはいけないもの例:チップなど、一般プラスチック製品(溶けます!)

* ろ過滅菌

溶液が熱感受性や揮発性の場合、0.1-0.2 μ m 孔フィルターを通すことで微生物は除去できます。作業
は無菌状態で行います。粘性やゴミが多いような溶液はまず、粗目(0.45 μ m 程度)孔フィルターでプレ
濾過ののちに細かいフィルターにかけましょう。 注意:ウイルスは除去できません

TIPS

機器紹介：14階

レーザーマイクロダイセクションシステム

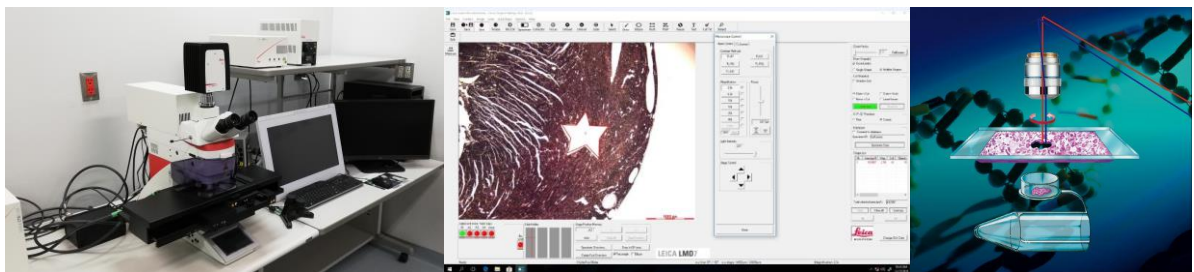
～ 昨年11月、13階から 14階へ移設いたしました ～

レーザーマイクロダイセクションシステムは、

- ・顕微鏡下で、標本を観察しながら目的領域をレーザーを用いて周囲から切り離し、採取する装置である
- ・パラフィン包埋切片・凍結切片の他、骨などの硬組織・培養細胞・蛍光標本等から細胞を回収することが可能
- ・コンタクトフリー、コンタミネーションフリーである

などの特徴を持っています。

13階処置室（BSL2実験室）にクリオスタットが設置され、臨床検体取り扱いできるようになり、薄切・標本作製 → 目的領域の切り出し、という一連の作業が全て当施設において可能になりました。



【装置について】

メーカー：ライカマイクロシステムズ社

型式：Leica LMD7

設置場所：学舎14階 共同実験機器施設 安全実験室-1（P2・BSL2実験室）

レーザーマイクロダイセクションの使用に関するお問い合わせは、14階共同実験機器施設 担当 江上・竹村（内線3968）までご連絡下さい

16階からのお知らせ

機器室に設置しているマイクロホモジナイザーの利用方法を変更しました

- ① シャフトは各教室で購入してください
- ② 臨床検体に対応するため、16階 P2 実験室（P2・BSL2 実験室）に移設しました

***ご利用の際は、16階 P2 実験室の利用申請が必要です**



P2 実験室の
利用登録をしてね





担当教員より



一昨年度の大型予算に加え、昨年度も機器整備費として全学的環境予算、プラットフォーム整備予算を重点配分いただいたおかげで機器の修理、更新がすすみ、ユーザーのストレスも随分低減されたのではないのでしょうか。

このニュースレターが発行になっている時期には科研費の採択結果が発表されていることと思います。皆さんはどのような年度のスタートを切られたでしょうか？ 皆さんが獲得された科研費の間接経費は研究支援プラットフォーム予算として共同利用施設の新機器の購入や修理、保守、維持費用に充てられています。最新(高額)機器を導入するには皆さんの科研費採択が必要です。

今回は不本意な結果に終わった方も次回の採択を目指して研鑽に努めましょう。 (塩田)

利用ノートは必ず記入してください

“未来のために、記録を残して”

共同実験機器施設では利用ノートを運営に活用しています。

忙しい中、記入を忘れがちになりますが、是非ご協力をお願いいたします

《活用例として》

- ★ 機器の故障!! → 修理をするかどうかを利用頻度で判断します。
- ★ 運転中のトラブル!! → 使用者に連絡し、サンプルを救出します。
- ★ 機器が古くなってきた!! → 機器を更新するかどうかを利用頻度で判断します。



利用頻度があまりにも少なければ、高額修理は見送られることも…

☆施設運用に関わるデータとなるため、ご協力をお願いいたします♪

編集後記

《重要：共同利用機器整備費 一時留保のお知らせ》

平成 31 年度の予算編成のなかで「大型機器経費については、大学統合の検討状況を鑑み、一時留保する」という決定がなされました。そのため、今年度は大型機器予算の配分がありませんので、例年の共同利用機器整備備品に関する一般募集は実施いたしません。

今年度より大学法人の名称が変わり、5月には元号も変わり・・・機器施設では1Fのクライオ電顕 Talos がオープンファシリティ開始、と何かと節目の年であると感じます。2022年に予定されている1大学統合にむけての決定の中、上記内容の誠に残念な通達を受けました。次年度以降はどうなるのか気になるところです。幸いなことに、前年度中は多くの機器を更新していただきましたので、更に施設を有効活用いただきたく、一同尽力してまいります。

発行：共同実験機器施設 発行責任者：川脇 順子

URL：<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/Central-lab/>

通常のお知らせや詳細はHPの更新が早いのでそちらをご覧ください